

2022年3月7日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 吉田 文紀
(コード番号：4582)
問合せ先 IR室 (TEL.03-5472-1125)

米国ブラウン大学との共同研究を開始 ブリンシドフォビル注射剤の脳腫瘍に対する非臨床試験

シンバイオ製薬株式会社（本社：東京都、以下「シンバイオ」）は、この度、ブリンシドフォビル注射剤（brincidofovir IV、以下「BCV」）について、サイトメガロウイルス（CMV）感染症の脳腫瘍に対する抗腫瘍効果を検討する非臨床試験（以下「本試験」）を米国ブラウン大学（Brown University）との共同研究において開始したことをお知らせします。

本試験の責任者であるDr. Sean Lawler（Associate Professor, Department of Pathology and Laboratory Medicine）は、「本試験から得られる知見が、ウイルス感染に関連した脳腫瘍に対する新たな治療法の開発につながるエビデンスを提供できれば嬉しく思います。」とコメントしています。

吉田文紀社長兼CEOは「現在、脳腫瘍の治療薬として多くの新薬の開発が進んでいますが、脳腫瘍の約半分を占めるサイトメガロウイルス感染症の作用機序を有するものはなく、抗ウイルス活性と抗ガン活性を併せ持つBCVのみであり、空白の治療領域に提供できる新たな治療方法を追求してまいります。」と語っています。

なお、本件が2022年12月期業績予想に与える影響はありません。

以上

【抗ウイルス薬プリンシドフォビル (brincidofovir : BCV) 概要】

BCVはシドフォビル (cidofovir : CDV、欧米では既承認・販売の抗ウイルス薬、本邦は未承認) の脂質結合体として新しい作用機序を持ち、CDVと比べて高活性の抗ウイルス効果の他、優れた安全性を併せ持つことから、広範囲のDNAウイルス感染症 (CMV : サイトメガロウイルス、AdV : アデノウイルス、EBV : エプスタイン・パール・ウイルス、HV : ヘルペスウイルス、BKV : BKウイルス、パピローマウイルス及び天然痘ウイルス等 ds DNAウイルス) に対して有効な治療方法となり得るものと期待されている。BCV分子の画期性は、CDVに特定の長さの脂肪鎖を結合することにより細胞内への取り込み効率を飛躍的に向上させ、細胞内で直接作用する分子に変換され高い抗ウイルス効果を発揮する。更には、CDVの深刻な副作用である腎毒性を回避できるため使い易く、今までにない新規の高活性の抗マルチウイルス薬である。

シンバイオはChimerix Inc. (本社 : 米国ノースカロライナ州、「キメリックス社」) との間で、BCVに関してのグローバルライセンスの権利取得を目的としてライセンス契約を締結し、本契約の締結により、キメリックス社は天然痘疾患を除いたすべての疾患を対象として、BCVの開発・販売・製造を含めた独占的権利を、世界全域を対象として、シンバイオに対して供与した。

【Dr. Sean Lawler 紹介】

Dr. Sean Lawlerが所属するブラウン大学は米国ロードアイランド州プロビデンス市に位置するアイビー・リーグの一角であり先進の研究大学の一つでもある。同学は、既存の学術境界を越えた様式による活発な共同研究や知的発見に基づき厳格な学問、複雑問題の解決、公益をもたらしている。Dr. Lawlerはこれまで、一貫して脳腫瘍の治療薬を開発するため非臨床と臨床を橋渡しする研究をリードし、近年ウイルス感染が脳腫瘍の悪性化に重要な役割があることを動物モデルで実証するなど多大な実績を残している。

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/30855281/>

【当会社概要】

シンバイオ製薬株式会社は、米国アムジェン社元副社長で、旧アムジェン株式会社の実質的な創業者である吉田文紀が2005年3月に設立した医薬品企業です。経営理念は「共創・共生」(共に創り、共に生きる)で表され、患者さんを中心として医師、科学者、行政、資本提供者を「共創・共生」の経営理念で結び、満たされない医療ニーズに応じてゆくことにより、社会的責任及び経営責任を果たすことを事業目的としています。なお、2016年5月に米国完全子会社 SymBio Pharma USA, Inc. (本社 : 米国ノースカロライナ州 ダーラム、社長 : 吉田文紀) を設立しました。